

私が、剣道を始めたのは、小学二年生で、
 剣道をしている友達に会い、剣道を勧められ
 たのがきっかけです。南錬成会に見学に行っ
 てみると、自分と同年代の人たちが年上の人
 たちと一緒に剣道をしていて、同じ年でも迫
 力があることに驚き、防具や胴着が格好良く
 見えたのを覚えています。
 入会した頃は、基本から教えてもらい、上
 手になれるかなと楽しみでした。徐々に防具
 を着けてみんなと一緒に稽古をし始めました
 が、自分では一生懸命やっているつもりでも
 みんなからだんだん遅れていききました。稽古
 に行きたくないなと思ったり、実際休んだり
 することもありましたが、両親、先生方、仲
 間など周りの人の支えがあつたおかげでなん
 とか続けてきました。
 五年生になったある日、母から
 「韓国の人を受け入れてみる？」
 と言われたので、私は好奇心で受け入れて
 みることにしました。そのために私は、恥を

さらさないうようにとなるべく稽古は出るようにしました。

第十二回広島市・SEOUL 剣道スポーツ少年団

交流会の当日となり、交流会の後に初めてホームステイの相手、金善泰君と対面しました。最初は、食事を勧めるのにも言葉が分ならず、金君と話をするのはとても大変で、何とか身振り手振りで伝えるほかありませんでしたが、最後には笑顔も見せてくれ、とても嬉しかったです。金君と過ごした五日間は、あつとい

う間に過ぎ、伝えられないこともたくさんありましたが、言葉が通じなくても、伝えたいという気持ちさえあれば、仕草や表情などを使って、コミュニケーションは取れると気づくことが出来た良い経験でした。その一年後、今度は私が韓国へ行く番でした。だが、結局、私は剣道が弱いままです。自分が韓国へ行ってもいいのか。」と思うようになり、相変わらずたまにしか練習に出ないし、道場の仲間に比べ自分は全然強くないの

で道場を代表するのは恥だと思っただけです。しかし、「強い弱いではなく剣道を通じて文化交流をするのだから。」と意識し、韓国へ行くための韓国語の勉強や合同稽古には欠かさず行っている、出発する頃には、いろいろなことを見聞きし、自分の世界を広げてこようという気持ちになれたのです。

到着翌日、合同稽古があり、日本と韓国では文化が違うので、剣道の礼儀も違うのかなと見ていると、実際にはほとんど日本と一緒にでした。ただ、韓国の稽古場は、試合コート一つくらいのマンションのフロアだったので、「こんな狭いところで稽古をしているのか、日本は格技場などの広い場所が使える、恵まれていているな。」と感じました。そこで、ホームステイ先の金善泰君と試合をして引き分けました。韓国では、小手・面・胴も韓国語なので、どこを打ってくるか分かりづらかったです。韓国から帰って来ると、楽しかった思い出ばかり残り、剣道に対する姿勢はまた元に戻っ

てしまいました。

こんな自分でも初心に返って考えてみると、これまで剣道をしてきて「やめたい」と思うことがたくさんあったのに、それでもやめなかつたのは、「友達」がいたからだと思いきや、友達は、苦楽をともにする大切な存在であり、本気でぶつかる目標やライバルだからです。そして、今回の交流会の各道場の参加者や金君との付き合いで、学校や地元以外に人間関係が広がり、何か世界が広がった

ような誇らしい気分になっていきます。そして、なかなか勝てない私が、たまに勝ったり、引き分けたりした時、仲間に認めてもらおうと、嬉しさが増します。金君にも手紙で報告しています。逃げ出したい弱い心に負けたり、試合に早く負けて悔しさをごまかしている自分のような者でも、少しずつでも成長させてくれる剣道と仲間達のことを多くの人に経験してもらいたいかから、中学校で剣道が必修になつて良かったと思います。

ぼくが剣道を始めたきっかけは、二つ年上
 の兄が友達にすすめられて、広島市南錬成会
 に入ったからです。一年生の僕にとつては、
 練習はきつく最初は竹刀も全然振れませんで
 した。先生のおっしやることをよく聞いて精
 を出しました。そのせいか、だんだん剣道が
 楽しくなってきました。

二年生になったとき、兄と僕は、福岡県の
 須恵剣友会に出稽古に行きました。僕は福岡
 にいって、福岡の人達はなぜこんなに手首が
 柔らかいのだろう、なぜこんなに振りが速い
 のだろう、と不思議に思つて、道場に帰つて
 試してみました。手首を柔らかくしようと心
 掛けていると振りが速くなってきました。僕
 は、手首が柔らかいから振りが速いのかと、
 自分の発見に納得しました。そのおかげでぼ
 くはちよつと上達した気になり、試合でも手
 応えがありました。その年も練習をがんばる
 ことができたこのときから試合に勝てるよう
 になつてきました。福岡の人と友達も出来て他

の道場の人の技も見られて僕も上達出来たので本当に福岡に行つて良かった、剣道をしていて良かった、と感じました。それから一年、僕はもう一度須恵剣友会に行けることになったのです。僕は、仲がよくなった友達にも会えるし、福岡の強い人達と剣道もできるのでわくわくしてきました。それも今度は福岡で大会にも出場することになったのです。僕は補欠だけど他の県の試合なんてめつたに見られないだろうなと思つたので、見取り稽古を

しました。低学年の試合を見てみると、「えっ、高学年がやっているんじゃないのか。」というぐらい強い人があつちにもこつちにもいました。でも、僕の道場も負けていなく決勝戦まで行きました。その相手は、須恵剣友会のAチームでした。大将戦で惜しくも負けてしまいい優勝を逃してしまいました。僕が、僕は福岡の人の良い所をまた見つけました。それは、声が大きいと言ふことでした。ぼくも声は大きい方ですがもう相手にならないほど声

が大きいのです。だから氣迫がすごく、それだけで相手を圧倒してしまふのです。ぼくは、声を大きくするよう努力しました。簡単には大きくなりませんでした。やっぱり、まだまだ未熟者だと感じました。

それから、だんだんと上達して四年生をむかえました。そして、広島市剣道スポーツ少年団で韓国の選手団と交流会があり、会を代表して我が家がホームステイを受け入れることになりました。この時も僕は研究しました。

韓国の人は、僕が見た中では足さばきがすごく整っていると感じました。日本の人は僕みたいに左足が前に来る人が比較的多いけど、韓国の人は日本より少ないと思いました。僕は次の稽古から左足を注意してみました。そして、四年生の大会で僕は初めて団体で優勝しました。僕は嬉しくて涙が出そうになりました。初めて決勝戦で勝った気持ち良さでやっとなん錬成会の同級生が熱心に練習するわけが僕にもわかったのです。それでぼくはもっ

とうまくなるうと前向きに練習するようになる
って、高学年になりました。上級生と当たる
と、ごまかしがきかなくなり勝てなくなつて、
練習に気が入らなくなりました。そのため団
体戦のメンバーに選ばれなくなり、試合が個
人戦だけという状態になつてきました。
そんなやる気をなくした夏、今度は僕が韓
国にホームステイに行きました。韓国ではそ
んきよをしないなどの習慣の違いや食べ物や
ソウルの様子などが思い出に残りました。

それからも弱いままのぼくでしたが、なん
だか急に須恵の人やホームステイ先の人達に
会いたくなつてきました。いつの間にかぼく
は剣道を通じて友達がたくさん増えていまし
た。
だから僕は剣道はただ勝つためだけにする
のではなくて、やっぱり良いものを残してく
れたり、仲間を作つてくれるものだと思いま
す。だからずっと続けていきたいです。